



守り育てる漁業

海の水質が少しずつきれいになってきています。「だけれどな、きれいな海と豊かな海は違うんだ」と4漁協の組合長たちは言います。漁師の言う豊かな海とは、魚の餌となるプランクトンが適度に生息する海です。しかし、プランクトンは多過ぎて赤潮などの要因にもなるので、なかなかちょうど良くはいきません。昔より漁獲高が減っている今、どのような漁業

をしていけばよいのか、組合長に尋ねると、4人は口をそろえて「大切なのは守り育てる漁業」と答えてくれました。漁協では、漁業を守り育てるため、市や県と協力し、さまざまな取り組みを行っています。



アサリを捕食するエイ



ツメタガイの卵(左)とツメタガイ(右)
アサリに穴を開けてアサリを捕食するツメタガイ。その卵は「砂茶碗」と呼ばれる面白い形状をしている。

守り育てる漁業のために

着を促進させる取り組みも始めています。外海では、しらすのほかにも、アワビ・岩ガキ・わかめなども採っています。それらが生息する消波ブロックなどに水垢が付着すると、餌となる海藻などがなかなか定着しません。そこで、市の補助事業を利用して、水垢の洗浄を実施しています。

海を守ることは漁師を守ること

守り育てる漁業の目的は、自然と人間の共生でもあります。子どもたちに魚や貝がたくさんすむ豊かな海を残すために、さまざまな取り組みを行っています。その取り組みは、収入を安定させ漁師という仕事の魅力を高めることにつながります。後継者不足に悩む今、守り育てる漁業は必要不可欠です。



水産多面的機能発揮対策事業

育てる漁業の一環で、トラクターを使って漁場となる干潟を耕うんし、アサリの定着を促進。



すいか 垂下養殖

アサリの稚貝を籠の中に入れ、海中につるして育てる。4段になっており、一番上が浮で、下3段に稚貝を入れる。

アサリの漁場では、トラクターで固くなった干潟に空気を入れ、稚貝を育ちやすくした後、毎年7・8月に豊川河口の六条潟で採取したアサリの稚貝を、各漁協の養殖場にまいています。また、アサリを食べてしまうエイとツメタガイの駆除も実施しています。ほかにも、籠の中にアサリの稚貝を入れて育てる「すいか 垂下養殖」や、カキと大アサリの殻を細かく砕いて漁場にまき、アサリの稚貝の定

